

# 産業廃棄物の削減

コーセーは2009年度も生産部門、物流部門を中心に廃棄物量削減の努力を続けてきました。可能な限りリサイクルを実施し、できるだけ単純廃棄処分を避けることを基本方針として取り組んでいます。

## 目標(環境指標)

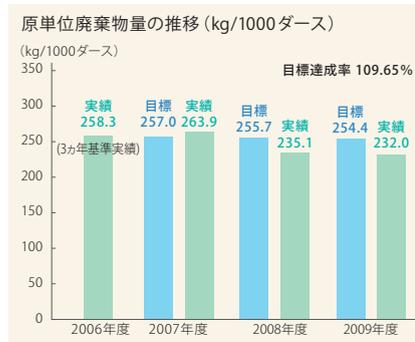
生産段階における産業廃棄物発生量の削減は、3ヵ年計画(2009年度までに2006年度レベルの98.5%にする)によって、毎年0.5%ずつ減らすことを目標として取り組んできました。今後は2009年度の実績をベースとして、2012年までに98.5%(単年度の削減目標は0.5%)にすることを目標とします。また、リサイクル率99.5%以上の維持管理も継続していきます。

## 2009年度の実績

2008年度目標254.4kg/1000ダース(0.5%)の削減計画に対して、結果は232.0kg/1000ダース(達成率109.6%)となり、3ヵ年計画最終年度の目標数値を大幅にクリアしました。今後は新たな3ヵ年計画の削減目標の実現に向けてさらなる減量化に取り組んでいきます。

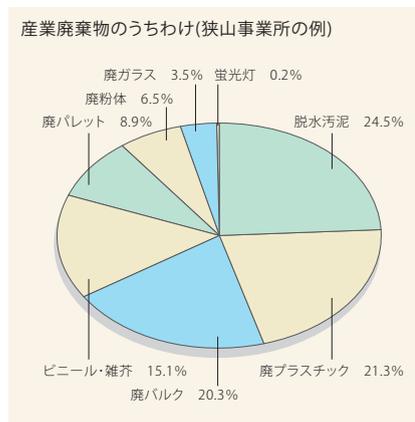
リサイクル率も99.5%以上の実績を達成しているため、引き続き廃棄物発生量の削減、リサイクル活動の推進に力を注いでいきます。

## 産業廃棄物量の現状と今後の目標



## 産業廃棄物のうちわけ

狭山工場や群馬工場を中心として、コーセーグループの各生産拠点ではリサイクルの推進に積極的に取り組んでいます。そのため、2000年度から単純廃棄される産業廃棄物の量が大幅に減少し、現在では99.5%以上の産業廃棄物がリサイクル化されています。また、2004年から全社的な生産・販売・在庫の新管理システムが導入されたため、準備段階で一時的に廃棄量が増えましたが、本格稼働とともに減量効果が出始め、2009年度の好結果につながりました。



## リサイクルの推進

コーセーグループの生産部門では、発生した廃棄物を単に“捨てる”のではなく、再び資源として社会に還元することを目標としたリサイクル活動に力を入れています。基本的な考え方はマテリアルリサイクルを最重点にケミカルリサイクル、サーマルリサイクルも併用し、焼却処理や単純廃棄を極力なくすことにしています。この方針にそって、各職場において分別・回収を徹底し、リサイクル率の向上、廃棄物量の減少に努めています。

2009年度は、生産・在庫・販売の連携体制が進み、廃棄物の発生量そのものが減少しました。また、必要に応じてリサイクル業者の見直しを行い、適正な処理の実施を常に監視しています。

(注)

マテリアルリサイクル: 材料をそのまま利用するリサイクル (例えばプラスチックからプラスチックへ、紙から紙へリサイクル)

ケミカルリサイクル: 何らかの化学的なプロセスによるリサイクル (リサイクル原材料を別のかたちにして利用)

サーマルリサイクル: リサイクル原材料を利用して熱として回収するリサイクル

主な廃棄物	リサイクル手段
脱水汚泥	堆肥化
バルク	燃料
廃粉体	堆肥化
ブラごみ・雑芥	固形燃料
プラスチック	再生プラスチック
ガラス	路盤材
その他	熱回収・路盤材

\*掲載データは主力生産拠点(狭山事業所・群馬事業所)の環境データですが、関係会社の生産拠点も含めた全体の96%をカバーしています。

# 省エネルギー

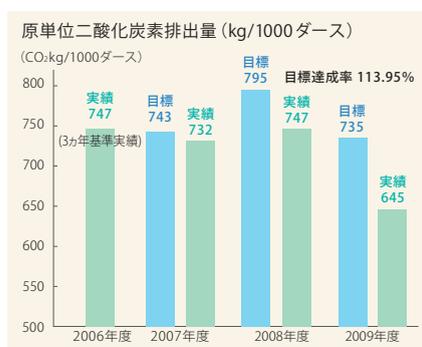
## 目標(環境指標)

生産段階における二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出量を、3ヵ年計画によって2009年度までに2006年度レベルの98.5%にすることを目標として取り組んできました。今後は2009年度の実績をベースとして、2012年までに98.5%(単年度の削減目標は0.5%)にすることを目標とします。

## 2009年度の実績

2009年度は目標としたCO<sub>2</sub>排出量735kgCO<sub>2</sub>/1000ダース(0.5%減)の計画に対し、実績645kgCO<sub>2</sub>/1000ダース(達成率113.95%)という結果で、最終年度の目標値を大幅にクリアしました。引き続き新たな3ヵ年計画の実現に向けて省エネ活動を展開していきます。

## 二酸化炭素換算した場合のエネルギー使用量の現状と今後の目標



## エネルギー使用量の現状と今後の活動

生産部門におけるエネルギー使用量は、省エネルギー活動の展開によって減少を続けてきましたが、工場の稼働に必要な光熱費は固定的で、生産量の増減によって原単位あたりのエネルギー使用量が影響をうけ、ここ数年は若干増加傾向にありました。この問題を改善するために、2008年度に群馬事業所ではボイラー燃料を灯油から天然ガスに切り替え、狭山事業所ではインバータコンプレッサーを導入しました。この結果、2009年度実績では大幅な固定費の削減と省エネ効果をあげることができました。今後はさらに光熱費等の固定費用の削減、ムダ取り改善を行っていきます。

## 2007~2009年度の省エネ活動の取り組み

生産部門における環境負荷低減活動として2008年度には群馬事業所のボイラー設備を灯油から天然ガスへと燃料転換する大規模な設備投資を実施しましたが、2009年度の実績から大幅な燃料削減、CO<sub>2</sub>の削減が実現できました。狭山事業所では、主力エア供給設備を省エネタイプのものにかえて使用電力量を低減させました。また、生産部門で働く作業員に対して省エネ意識、環境負荷への意識を高める活動を継続して展開したり、職場パトロールを定期的に行い、空調や生産設備、厚生施設などの無駄な部分の改善に努めています。

## 省エネルギー運動を組織的に展開

コーセーでは企業の社会的責任の一環として、環境への影響を配慮し、2000年度に群馬工場、2002年度に狭山工場、2003年度に関係会社の工場と狭山事業所の物流部門でISO14001の認証を取得しました。省エネルギー活動に組織的に取り組み、単に監視やチェック活動だけでなく、建屋や構造設備などのハード面と運用するソフトの両面から省エネルギー技術を導入しています。また、新たな設備の導入、既存の構造設備の点検・改造に関しても、一定の基準を設けて可能な限り環境への配慮を実施しています。

コーセーは2009年度も、引き続き無駄なエネルギー消費をなくし、地球の温暖化防止に企業として取り組むことを基本方針とした活動を行ってきました。



省エネ型空調装置



省エネ照明

\*掲載データは主力生産拠点(狭山事業所・群馬事業所)の環境データですが、関係会社の生産拠点も含めた全体の96%をカバーしています。

# 環境汚染の防止

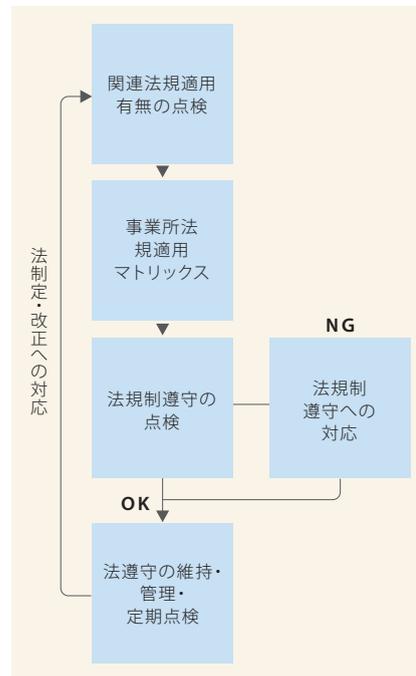
コーセーは2009年度も、環境関連法規の遵守はもちろん、グループ全体で環境負荷要因を極力減らす努力を続け、環境への汚染等の防止に努めてきました。



\*高架水槽塗装工事

## 法規制の遵守

環境基本法をはじめとする環境関連の各種法規制、条例や地域協定の遵守を徹底するために、ISO14001に適合した法規制への対応を実践しています。特に生産・物流部門では独自に設定した統一の『環境マニュアル』に従って事業所ごとに、また関係会社の工場ごとに対応しています。また、将来の法制化にもすみやかに対応できるように法規制の動向も常に監視しています。



## 化学物質への対応

化粧品は身体に直接使用するものなので、製造段階でも有害な化学物質を使用することはありませんが、まれにPRTR法(特定化学物質排出量の把握・管理促進法)等、化学物質の管理に関する法や条例の適用を受ける物質を使用する場合があります。

コーセーでは対象となる化学物質をどれだけ環境の中に排出したかを監視・測定するシステムを構築しています。この監視・測定システムの運用によって法律に厳密に対応するとともに、これらの化学物質の使用や排出の削減に努めています。

なお、2009年度実績では届け出対象となる化学物質の使用は2種だけでした。

## 洗浄污水のクリーン化

生産プラントは製造作業終了後に水等で洗浄する必要があります。しかし、コーセーでは関係会社の生産施設を含め、生産プラントに付着したバルクを洗い流す前に回収作業を行うことによって、洗浄汚水量の削減に努めています。また、場合によっては初期洗浄水も回収して、洗浄污水が廃水処理場へ流れ込むことを避ける工夫をしています。

## 環境関連投資

環境負荷をできるだけ低減させていくために、毎年環境に関わる投資も積極的に実施しています。2009年度に実施した環境投資の例をご紹介します。

### 狭山事業所における環境関連投資

件名	環境的側面
老朽化空調設備を省エネ型空調機に交換(仕上げ場、検査室、パブリック部分等)	省エネルギー
屋外の蒸気配管更新工事	エネルギーロスの改善
工場内の建屋改修工事(仕上げ場、製造場、菌検査室等)	省エネルギー
井戸オーバーホール工事、および高架水槽ポンプの更新、塗装工事*	地盤沈下・水質汚濁防止
排水処理施設の定期整備工事	水質汚濁防止
ダンボールの緩衝材への再利用	社内リサイクル
事業所内分煙化の促進(工場内と事務棟が完了)	受動喫煙防止対策
バッテリー駆動フォークリフトの更新(随時)	大気汚染防止
粉体製造室空調装置の煤塵フィルター交換工事	大気汚染防止

# 狭山事業所、 群馬事業所の 環境負荷データ

	今年度	前年との増減量
電気エネルギー	12,144 (単位/1000kw)	△235
重油・灯油	350 (単位/1000L)	△159
天然ガス	491 (単位/1000Nm <sup>3</sup> )	115
水	263 (単位/1000m <sup>3</sup> )	10
原料	9,565 (ton)	622
容器・包装材料	6,775 (ton)	147

INPUT



狭山事業所

コーセー主力工場  
(2拠点)



群馬事業所

コーセーの事業範囲は関係会社を含めてそのほとんどが化粧品です。生産も主要拠点である狭山事業所と群馬事業所への集中度が高いことから、2009年度の環境負荷データもこの2工場に絞ってまとめました。なお、2009年度の環境会計につきましては、25-26ページをご覧ください。

		今年度	前年との増減量			今年度	前年との増減量
大気への排出	CO <sub>2</sub>	:6,431.74 (ton)	△952.26	化学物質の排出 (PRTR対象)	大気	:0 (ton)	±0
	NO <sub>x</sub>	:2.32 (ton)	△0.67		産業廃棄	:0 (ton)	±0
	SO <sub>x</sub>	:0.38 (ton)	△0.10		産業廃棄物の搬出	総排出量	:2,317.5 (ton)
工場排水の排出	排水量	:165(単位/1000m <sup>3</sup> )	1	再資源化		:2,311.9 (ton)	△8.6
	BOD	:18.91 (ton)	0.78	マテリアルリサイクル:1,847.4 (ton)			
	SS	:8.79 (ton)	3.1	ケミカルリサイクル: 191.9 (ton)			
	n-Hex	:0.24 (ton)	△0.26	サーマルリサイクル: 272.6 (ton)			
				単純焼却	:5.6 (ton)	2.1	
				埋立処分	:0 (ton)	±0	

OUTPUT